

# 動物學雜誌第八拾六號

明治二十八年十二月十五日

## ●本邦産淡水介類(二)

岩川友太郎

(三) *Pal. stelmaphora*, Bourg. まるたにじ(假名)

第十九版 第三圖及ヒ第四圖

介殼ハ膨脹セル卵圓形ニシテ殼質薄ク表面滑カニシテ綠色ヲ呈シ殼頂ハ鈍頭ニシテ各層膨起スルカ故ニ縫接深ク螺層六階アリテ内層縁ハ外方ニ反轉シ殼口ハ楕圓狀ニシテ上方ハ鈍角ヲ成シ下方ハ殆ント圓滑ナリ殼面ニハ成長線ノ外體層ノ末端ニ近ツキテ粗大ナル肋起線ヲ具ヘ亦往々痘痕狀ノ斑紋ヲ有スルモノアリ(第四圖)且ツ本種ニ固有ナル微候ハ各層面ニ卷旋セル三條ノ點線ナリ此ノ點線ハ肉眼ニテモ視ルヘク蟲鏡ニテハ殊ニ明瞭ニシテ嘗テ他ノ種類ニ存在スルコトナク幼稚ノ介ニハ點線ニ沿フテ間

本邦産淡水介類(二)(岩川)

々細毛ヲ生スルコトアリ

リーブ氏ハ第四圖ノ如キ痘痕狀ノ斑紋ヲ具フル者ヲ *mal-*

*leuta* ト名ツケテ別種ヲ設ケタレトモ該斑紋ハ特ニ本種

ニ限ララスシテ第一圖ニ示セルカ如ク *japonica* ニモアリ

亦次ノ *oxytropis* 形ニモ存在スルコトアリテ全ク本種ノ

一變態タルコト疑ナクコベルト氏ト同説ナリ本種ハ *ja-*

*ponica* ト共ニ廣ク本邦ニ産スルモノニシテ博物館ニハ東

京近傍、常州霞ヶ浦、尾張及ヒ阿波ニテ採集セル數品ア

リ

殼高 四三—五〇 徑 二六—三五 口長 二二—二

六 徑 一九—二三

(四) *Pal. oxytropis*, Benson?

第十九版 第五圖第六圖及ヒ第七圖

介殼ハ尖塔形ニシテ殼質薄ク稍々透明ナリ體層ハ膨脹シテ茶褐色ヲ帶ヒ殼頂及ヒ幼稚ノ介殼ハ全ク綠色ナリ殼頂ハ鋭ク尖リテ幼稚ノ者(第七圖)ニハ殊ニ著シト雖モ漸々成長セル者ニ於テハ多ク磨滅セラレタリ螺層ハ六階或ハ

第七卷

四一一

明治廿八年十二月十五日

七階ニシテ各層膨脹スルコト少ナキカ故ニ縫接ハ淺ク各層ヲ卷旋セル三條ノ稜線中最後ノ一線ハ縫接ノ直上ニ走リ上方ノ二線ハ略ホ同等ノ距離ヲ以テ互ニ並行スルヲ以テ各層ノ表面ハ同大ノ三道ニ分畫セラル殻口ハ卵圓形ニシテ唇邊ハ薄ク内唇ノ礎部ハ少シク外反シ且ツ體層ニ於ケル各稜線ノ末端ハ外唇縁ニ至リテ多少銳角ヲ成セリ稜線ノ間ニハ亦タ更ニ細微ナル數條ノ稜線ヲ有スルモノアリ

ベンソン氏ノ測定ニ據レハ大サハ左ノ如シ

殻高 四八 徑 四二 口長 二六 徑 二二

博物館所藏ノ標本ハ東京、箱根、尾張及ヒ伊勢ニ採集セラレタル者ニシテ點數三十六個アレトモ前條ノ大サニ達スルモノナク最大ナル者ト雖モ左ノ大サニ過キス

殻高 三九 徑 二四 口長 二二 徑 一七

前條ニ記セル處ハベンソン、コベルト兩氏ノ與ヘタル定義ノ要點ニシテ第五圖ハコベルトヨリ摸寫セル本種ノ摸範タル者ナルカ故ニ其ノ形態ハ能ク之ト相符合セリ然レ

トモ本種中ニハ種々ノ變形アリテ頗ル能ク *schubertii* ニ類似スル者アリ即チ第六圖ノ如キハ余ノ標本中最モ普通ナル形態ニシテ一見 *schubertii* ト之ヲ區別スルコト容易ニ非サルナリ蓋シ第七圖ノ如キ幼形ニ於テハ甚タ相異ナルカ如シト雖モ成長スルニ隨ヒ漸々 *schubertii* 形ニ變移シ稜線ノ位置ノ狀ニ至リテハ全ク同一ニシテ唯々其ノ主ナル區別ハ稜線ノ較々銳角ナルト殻質薄クシテ殻頂ノ尖銳ナルトニ過キス而シテ *schubertii* ノ幼稚ナル者ノ中ニハ尖塔形ニシテ稜線銳ク殻口ノ形狀ニ至ルマテ能ク本種ニ類似スルモノアリ要スルニ本種ハ *schubertii* ニ近似スル處甚タ多ク元ト *japonica* ヨリ分化セルモノ、如クニシテ以上三種ノ間ニハ自然之ヲ區別シ難キ形態變遷ノ連續アリ

(五) *Pul. ingallsiana*, Reeve ながたにし

第十九版 第八圖及ヒ第九圖

本種ハ產地ニ隨テ種々ノ變態アレトモ螺塔狹長ニシテ縫接ハ深ク各螺層ノ上縁ハ遠ニ膨起シ階段狀ヲ成セルカ故ニ一目瞭然他ノ種類ト之ヲ區別スルヲ得ヘシ

螺層ハ六階ニシテ多クハ烈シク磨滅セラレ殼質ハ些々厚ク或ハ茶褐色ニシテ表面粗糙ナルアリ或ハ鮮綠色ニシテ表面ノ滑澤ナル者アリ又各螺層ニ三條乃至四條ノ判然タル稜線ヲ有スルアリ或ハ全ク之ヲ缺クモノアレトモ最末ノ螺層ニハ必ス一條ノ稜線アリテ其ノ末端ニ當レル外層縁ハ多少角度ヲ成セリ第八圖ハ諏訪湖ノ産ニシテリープ氏ノ摸範トセル形ト能ク相符合セリ第九圖ハ尾州産ニシテ各螺層ノ中央ハ綁レ込ミ筋高クシテ著シキ變形ヲ現ハセリ博物館所藏ノ標本ハ尾州、信州及ビ琵琶湖ノ産ニシテリープ、コペルト二氏ノ測定セル大サハ高サ三八乃至四八「ミメ」ニ過キスト雖モ余ノ標本中最大ナル者ハ左ノ如シ

殼高 五一 徑 三〇 口長 二五 徑 一九

以上五種ノ田螺ヲ通覽スルニ *japonica*, *selateri* 及ヒ *oxytropis* ノ三種間ニハ連綿接續スル處アリテ判然之ヲ分別スルコト難クミナ *japonica* ノ變種タルニ過キサカカ如シ故ニ本邦ニ産スル田螺ハ *japonica*, *stehmaphora* 及ヒ

*ingulsiensis* ノ三種ノ外ニ出テサルヘシ尙ホ其ノ外ニ本邦産トシテリープ、マーテン兩氏ノ記載セルモノ三種アリ其ノ定義簡畧ニシテ識別ノ便ヲ得スト雖モ參考ノ爲メ是ニ之ヲ譯出ス

(六) *Pal. nitens*, Reeve.

介殼ハ圓錐狀楕圓ニシテ鮮明ナル橙黃色ヲ呈シ螺層ハ斜ニ脹起シテ細微ナル又線ヲ具ヘ稜線モ亦細微ニシテ最末ノ螺層ニ至リテ消滅シ殼口ハ楕圓狀ナリ

殼高 二二 徑 一七

(七) *Pal. abbreviata*, Reeve.

介殼ハ略ホ球形ニシテ暗橙黃色ヲ呈シ殼頂ハ鋭ク螺層ハ圓クシテ縫接ハ深ク稜線點線ハ共ニ不明ニシテ全面ニ痘痕狀ノ斑紋ヲ具ヘ殼口梨子狀ニシテ唇邊黑色ナリ

殼高 二八 徑 三〇

(八) *Pal. laeta*, von Martens.

介殼ハ膨大セル圓錐形ニシテ臍孔ハ狭ク成長線ハ細微ニシテ明瞭ナル點線ヲ有シ鮮綠色ニシテ殼頂ハ黛紫色ヲ帶

明治廿八年十二月十五日

廿八星瓢蟲ニ就キ(松村)

第七卷 四一四

ビ螺層六階アリテ上層ハ鈍角ヲ成シ下層ハ銳角ヲ成セリ  
殼口ハ卵圓形ニシテ上角ハ鈍ク唇邊平滑ニシテ黑色ナリ  
殼高 二三 徑 二一 口長 一五 徑 一二

## ●廿八星瓢蟲ニ就キ

*Epilachna 28-punctata*, Fab.

松村 松年

## 緒言

廿八星瓢蟲ノ本邦ニ大害ヲ與フルニ至リタル起原ハ邈乎  
トシテ之ヲ昔日ニ探ル能ハズト雖苹果樹ノ害蟲 *Apante*  
*Curtaegei*, T. ノ如キ或ハ葡萄ノ害蟲 *Phylloxera vastatrix*,  
*Planck.* ノ如ク通商貿易ノ盛ナルガ爲メニ輸入セラレタ  
ルモノニアラズシテ本邦固有ノモノニアラズンバ甚ダ古  
キ種類ナルコトハ余輩ノ敢テ疑ヲ容レザル所ナリ之レヲ外  
國ノ書ニ徵スルモ記載スルモノハ只僅ニ倫敦リニアソ會  
ノ報告書アルノミ翻テ之レヲ本邦ノ書籍ニ探ルモ實ニ稀  
有ニシテ動物學雜誌ニ於テ僅ニ五六行ナル名和氏ノ記載

アリ前札幌種育場明治十九年ノ報告書ニモ亦少シク記ス  
ル所アリ猶ホ本年三月ノ興農園雜誌ニモ少シク説明スル  
モノアリト雖其學術上ノ研究ヲナシ其豫防驅除ノ法ヲ講  
シタルモノアルヲ聞カザルナリ  
抑モ廿八星瓢蟲ノ北海道ニ於ケル農家ニ大害ヲ與フルニ  
至リタルハ實ニ是レ明治七八年ノ頃ニシテ札幌種育場建  
設後僅一個年ニアリ爾來其害未ダ監理者ノ注意ヲ促スノ  
多キニ至ラズ年々少量ノ被害ヲ以テ終リタリキ然ルニ明  
治十九年ニ至リ忽焉トシテ億兆ノ同蟲ヲ生シ周章狼狽農  
家ハ大ニ之レガ驅除ニ盡力スト雖從テ驅レバ從テ生シ其  
收穫擧テ皆無ニ歸セシモノ少キニアラズ種育場ノ如キハ  
始末之レガ驅除ニ怠ラザリシヲ以テ被害ノ幾分ヲ補フヲ  
得タリト雖實ニ驚愕ノ外ナカリシト云フ其驅除セシ數量  
ノ如キハ一石七斗八升八合ニシテ之レヲ蟲類ノ個數ニ改  
算スレバ實ニ七百六十八萬八千四百餘ナリト其驅除セシ  
方法ハ人夫ヲシテ竹箒ヲ以テ之レヲ一方ニ集メシメシト  
云フノ有様ナリキ然ルニ同年七月下旬九月下旬ノ兩回ニ